

第6回環境部会記録

1. 日 時 平成25年7月23日(火) 18:00~20:00

2. 場 所 本会会議室

3. 出席者(順不同敬称略)

部会長 中村 勉(中村勉総合計画事務所/東京)

副部会長 篠 節子(篠計画工房/東京)

〃 澤地孝男(建築研究所/茨城)

委 員 大野二郎(日本設計/東京)

山口克己(アルセッド建築研究所/東京)

辻 充孝(森林文化アカデミー/岐阜) 阿部弘明(空間デザイン/大阪)

欠席者 河野 進(河野進設計事務所/東京)

山田貴宏(ビオフォルム環境デザイン室/東京)

糸長浩司(日本大学/神奈川) 宿谷昌則(東京都市大学/神奈川)

オブザーバー 浅見真二(国土交通省) 山下浩一(前国土交通省)

常務理事 木村行道

事務局 山田隆一、佐藤綾乃、阪本 靖

4. 報告事項

(1) 平成25年度住宅省エネルギー講習の実施計画について

事務局より、以下の説明があった。

施工技術者向け講習：7月~12月に220回開催。育成目標2. 2万人

設計者向け講習：11月~2月に440回開催。育成目標1. 1万人

5. 議題

はじめに、本日、オブザーバー参加をいただいた国土交通省住宅生産課・浅見建築技術政策分析官及び前任の山下氏の紹介があった。

なお、山下氏には、本部会委員の委嘱を申し上げ、次回より委員として参加いただければいかがかとの提案があり、異議なく了承された。

(1) 本部会の検討テーマの進め方について

はじめに、中村部会長より以下の説明があった。

先に、本部会の7つの活動テーマを挙げたが、テーマごとの活動計画をどう具現化していくかを検討したい。また、連合会は各建築士会を支援していく立場にあるので、情報提供や人材の派遣が重要となる。情報の提供は連合会のホームページを通じて継続的に発信していきたい。

(各委員の意見)

①省エネセミナーについて

・講習会は経費も掛かるので、WEBを使って少量でいいから情報発信を続けたい。

- ・各委員の行っている取り組みを A4判 1枚程度のフォーマットに記述し、提示する。
- ・住宅の省エネ性能については図面からかなりの情報のやり取りができるので、わざわざ調査に行かなくてもわかると思う。
- ・これからは、外皮の性能把握と断熱、遮蔽である。外皮の性能を確認する方法、設備、コストパフォーマンスを上げる方法は何か。講習で教わるよりも、自ら検証してみることの方が効果は上である。
- ・辻委員の講義では宿題を効果的に取り入れている。省エネ C 講習の修了者に本部会で作成する計算プログラムを提供し、自ら数値を出してみることも効果がありそうだ。
- ・講習を受けただけではすぐに忘れる。幸い C 講習のテキストがあるので体験プログラムを作ることは良さそうだ。良いフォローアップになると思う。
- ・現在の住宅の省エネ基準適合率は 50%にも満たない。ただ、断熱材を入れればよいわけでは無く、そのためにも大工、工務店の人材を教育しないとイケない。
- ・建築士会でも講習を行うのであれば、C 講習など既存の講習とうまくすみわけたい。
- ・住宅供給の現状として今の大工、工務店による供給体制はでは厳しく、やがてハウスメーカーが地方を侵食するであろう。そのためにも地域の建築士にもっと頑張ってもらい必要があり、本部会に期待されるのはまさにここの支援ではないか。
- ・木活協の C 講習だけで大工・技術者 20 万人の育成はおぼつかない。受講者に資格が付与されるなどのインセンティブはないのか。無いのであれば建築士会で考えなくてよいか。
- ・とにかく C 講習の教材はオープンになっているので、フォローするための材料を用意するなどアフターケアを考えたい。
- ・木活協と連携し、C 講習受講者に宿題を出してもらい、士会がフォローする体制は作れないか。

②再生可能エネルギー

- ・知識のない人が多かったが、今まではそれでも良かった。しかし、建築士が太陽光を知らないばかりに電気屋、量販店が発電設備を付けておしまいになることで、雨漏りや不具合等、後々問題に発展しないであろうか。デザイン的にも、建築士として今のままで良いのであろうか。また、ハウスメーカーには設備の知識のある人がいるので、建築士にとってますます困ることになる。その意味からも建築士向けに太陽光発電に関する教育が必要と思う。
- ・太陽光発電協会などに取り付け方ガイドブックがあるはずである。
- ・屋根に取り付ける技術的基準もそうだが、取付けに係る耐震性能や関係する基準法等に関する情報も整理したい。現実と法規に矛盾があれば、国に見直しの要望も考えたい。
- ・士会の会員全体のことを考えると住宅以外に非住宅も考えないとイケない。
- ・エネルギーが無い時代に、世の中のためにとやってやったことが問題となってしまう社会の仕組みを何とかしなければとも考える。
- ・大野委員に、課題を整理してもらいたい。

③ストック改修

- ・ストック社会をしっかり構築する。改修によって省エネ社会を作っていく。山下氏に検討願えないか。
- ・大問題で困難であるが、どこまでできるのか、BELCA等と相談して議論の材料を作ってみたい。
- ・この問題はお施主さんにどう説明していくのかも重要である。
- ・事業費4億円の改修設計をその5%の2千万円で受けても、耐震やら何やらまで含めると20億円規模の仕事になり、とても2千万円では受けられない。調査に大きなお金がかかり、報酬も含めて現状の制度を見直してもらわないと、改修設計はとてもできない。
- ・100㎡の改修のために10000㎡の調査が必要となるのが現状である。改修促進は設計者、施工者、施主にインセンティブがないと困難であろう。

④エココミュニティ

- ・実現には困難な課題が多いが、人材育成には取り組みたい。コミュニティとは何か。マンション組合もあれば、地域の自治体や団体もある。低炭素社会はコミュニティでの話し合いが無ければ考えられない。連合で育成する人材が、コミュニティに戻って活動することで広がりができることを望みたい。

(2) その他

今回の本部会は、日程調整の上開催することとなった。

以上